

79期2年 進路だより④

～ 令和7年8月29日（金）号 ～

📎📎📎 7月記述模試総括 📎📎📎

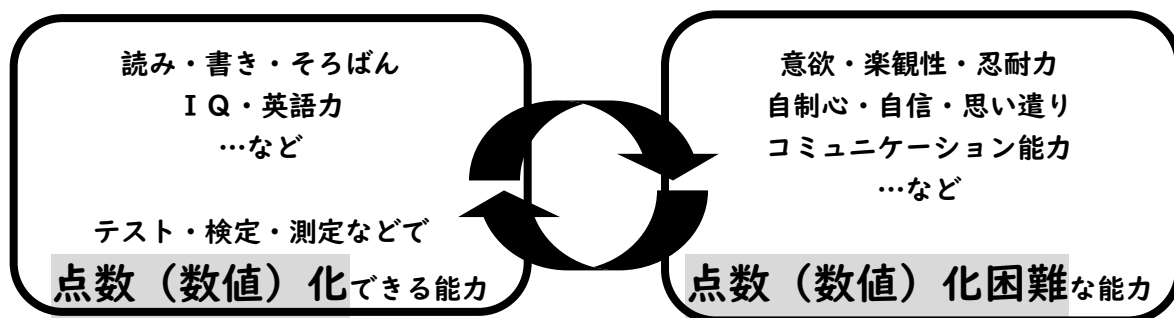
7/12（土）に受験した7月希望者模試の結果を返却しました。結果はどうでしたか？全体GTZを見ると、国数英合計が「B2」、国語が「B2」、数学Aが「B3」、英語が「B2」となりました。いわゆる関関同立の入学試験を突破するには、最低でも「A1」以上が必要であると言われています。つまり、今よりも2ランク成績を上昇させなければ、大学入試において、満足な結果を残すことはできません（国数英合計において）。

前回のスタディサポート2年1回目の結果と同様、79期2年生は成績が下降傾向にあります。

また、79期生の今回の模試受験者数は191名でした。これは例年に比べると訳50名ほど少ない受験者数です。この数字からも進学への意欲の低さが見えるのではないのでしょうか。「〇〇大学に行けたらいいな」では進路実現はできません。来年の自分が後悔しないために、2年生のここで踏ん張らなければ、進路実現は厳しいでしょう。

認知能力と非認知能力

みなさんは認知能力と非認知能力という言葉を知っていますか？下図を見てください。



認知能力とは、客観的に測定できる能力であり、これまで認知能力＝学力と認識されてきました。しかし、「学力にはそれ以外の要因も働くのではないか」という観点から注目されているのが、非認知能力です。

非認知能力とは、簡単に言えば、人間性です。学校生活でいえば、授業態度が良い、遅刻欠席をしない、他者へ気遣いができる、などが非認知能力と言えるでしょう。研究結果によると、非認知能力が高い人は認知能力も高い傾向にあるということです。ただし、過去に非認知能力が高いからといって、今の認知能力が高いわけではありません。あくまで現在、非認知能力が高い人が、認知能力が高いという結果が出ています。

何が言いたいかというと、現在の79期2年は全体的に授業態度（課題提出率）、出席状況、多くの課題があります。勉強して学力を上げることは当然のことですが、非認知能力も上げていこうという観点で学校生活を送ってください。

各教科からアドバイス

非認知能力を向上させるのと同時に、もちろん認知能力も向上させる必要があります。右に7月記述模試に関する各教科からのアドバイスを載せておきます。アドバイスを熟読し、全員受験の次回11月記述模試に備えてください。

国語	単元によって、得点が取れているところとそうでないところの差が大きい人が多いと感じます。今回は特に評論文と古文で、もう少し点数取れたのではないかと感じます。実力を発揮できるように、基礎を固めることの重要性を再認識し、記述などの発展問題にも粘り強く取り組む姿勢を大切にしましょう。日頃授業をしていて感じることは、「日々の積み重ね」がなされていないことです。例えば、古文の単語や古典文法など。小テスト前にバタバタと数分間で勉強をしているだけでは入試には間に合いません。国語も積み重ねていくことで成績は上がります。直前に慌てるのではなく、日頃からコツコツと積み重ねていきましょう。 また、以前担任の先生からも連絡があったように、9月から国語科は毎週水曜に進学講習を実施します。意欲のある人は、ぜひ講習に参加しましょう。都合が合わない人も、教材の杜に資料を置いておくので、ぜひ活用してください。今できる努力から始めましょう。
数学	全体を通してみると、日常の勉強への取り組みが成績にそのまま反映されているように感じます。普段から授業にしっかり取り組み、課題も自力で解いて提出している生徒は良い成績をとれています。ドリル、数学マラソンなど、答えを丸写しして提出しても全力はつきません。時間の浪費でしかありません。学力を向上させる最短ルートは、「課題に真真に取り組む。」これに尽きます。そして、この問題集をやれば必ず成績が上がるというものはありません。今、手元にある教材（チャート、サクシード、教材の杜）にどう取り組むかの方が大事なことです。それらの活用方法がまだ分からないという人は、担当者に相談に来てください。
英語	リスニングの得点が低い人はリスニングのテキストを使い、何度もディクテーションや音読をやってください。読解問題では、時間がなくなってしまい最後まで終わらなかった人もいたでしょう。日頃の授業でも、教科書の文章を速く正確に把握することを心がけてください。毎回きちんと自分で予習することが大切です。模試の復習は必ずやりましょう。解きっぱなしでは何も身に付きません。また、必ずシス単10分、例文テスト対策10分を毎日やってください。基本的な語彙力、文法力がなければ応用問題にチャレンジすることはできません。高校生活もそろそろ振り返り点です。受験勉強は個人戦ではなく団体戦なので、みんなで勉強に向かう雰囲気を作っていきましょう！

「自分が行けるところに行く」のではなく、「自分が行きたいところに行く」という進路決定ができるよう、今からできることを大切にしていきましょう！